



SUSE、エッジからコアそしてクラウドに至るまで、 お客様のデジタルトランスフォーメーションの課題解決を支援

SUSE は新たにオープンなハイブリッドおよびマルチクラウドとアプリケーションデリバリーの革新的機能を発表。企業は顧客が望む最適な時期、場所、方法で支援することが可能に

NASHVILLE, Tennessee (SUSECON2019) | 2019年4月2日

顧客企業がソフトウェア定義型データセンターを超えて、エッジおよびクラウドコンピューティングを活用するようになるにつれて、SUSE®もその市場と共に進化し、新たなハイブリッドおよびマルチクラウド機能とアプリケーションデリバリーイノベーションにおける革新的な機能を提供します。これにより、お客様が自らの方法と求める速さでデジタルインフラストラクチャのトランスフォーメーションを推進するための支援をします。

SUSE のエンジニアリング、プロダクトおよびイノベーション担当プレジデントであるトーマス・ディ・ジアコモ (Thomas Di Giacomo) は次のように述べています。「当社のお客様においては、エッジからコアデータセンター、そしてクラウドに至るまでのコンピューティングソリューションに対するニーズが最近特に高まっています。これらのコンピューティングモデルのすべてに対して、技術の境界に遮られることのないシームレスなデリバリーと管理が求められます。SUSE は 25 年以上にわたりエンタープライズグレードの Linux を提供してきました。したがって、ソフトウェア定義型インフラストラクチャとアプリケーションデリバリーの両方に対して、顧客ニーズ全体をカバーするように拡張したのは必然的な流れでした。企業が顧客の要求をサポートしながら、自身が求めている最適な時期、場所、方法で自社のデジタルトランスフォーメーションを変革し実行できるようにすることが当社に与えられた使命なのです。」

SUSE はパートナーやコミュニティと協力して、クラウドおよびアプリケーションデリバリーソリューションを提供しサポートします。これにより、お客様はオープンソースのコンテナファーストテクノロジーを介して、オンプレミス、ハイブリッド、およびマルチクラウドなど、どの環境においてもアプリケーションやワークロードを作成、デプロイ、管理することが可能になります。

SUSE Cloud Application Platform 1.4

[SUSE Cloud Application Platform 1.4](#) は、Project Eirini により、完全に Kubernetes ネイティブなアーキテクチャの基で Cloud Foundry Application Runtime を導入した最初のソフトウェアディストリビューションとして、今月中に利用可能になる予定です。新しいリリースでは、プラットフォームをマルチクラウド環境にデプロイするためのオプションの数も増えています。[SUSE Cloud Application Platform](#) の最新リリース 1.4 には、以下の機能が含まれます。

- Project Eirini の技術を組み込んだ 100%Kubernetes ネイティブの Cloud Foundry アーキテクチャを採用。Eirini により、広く採用されている [Kubernetes](#) コンテナスケジューラの大きなメリットを享受すると共に、Kubernetes と CloudFoundry の統合を強化することができます。また、お客様は Kubernetes または Cloud Foundry Diego をコンテナスケジューラとして使用できます。開発者にとっては、どちらを使用しても同様の体験が得られます。
- 新たに、Google Kubernetes Engine (GKE) と Google のマネージド Kubernetes サービスをサポートすることにより、マルチクラウドの柔軟性が向上します。このマルチクラウド環境の拡張サポートにより、パブリッククラウド（Amazon EKS、Azure AKS、または GKE）、SUSE CaaS Platform によるオンプレミス、またはマルチクラウドの組み合わせのいずれの環境でもプラットフォームを使用できるため、お客様にとっての選択肢が広がります。

Altoros の社長兼 CTO を務める Andrei Yurkevich 氏は次のように述べています。「当社はシステムインテグレータとして、グローバル 2000 企業が持続可能なテクノロジー主導の競争優位性を獲得する支援をしています。今回 SUSE が Cloud Foundry により実現した、運用担当者に対する Kubernetes の容易性を開発者にもたらす統合機能に心から期待しています。当社のお客様は、これら 2 つの技術を一緒に使うことに対し強い関心を示しています。Project Eirini を組み込むことで、SUSE は統合をさらに最適化し、Kubernetes クライアントは Cloud Foundry をより迅速に導入できるようになりました。」

Kubernetes 公認サービスプロバイダ

現在 SUSE は、[Kubernetes 公認サービスプロバイダ \(KCSP\)](#) として、SUSE Cloud Application Platform および SUSE CaaS Platform アプリケーションデリバリーソリューションを使用する企業に対して卓越したサポートとサービスを提供しています。KCSP プログラムは、企業の Kubernetes 適用を成功に導く豊富な経験を持つ、熟練したサービスプロバイダ層を公認しています。

SUSE OpenStack Cloud 9

今年4月には、最新のエンタープライズ向け [OpenStack Cloud プラットフォーム](#) も、[SUSE OpenStack Cloud 9](#) として提供される予定です。これは、SUSE OpenStack Cloud と HPE OpenStack の最高技術を単一ブランドリリースとして統合した最初のバージョンです。OpenStack Rocky をベースにした SUSE OpenStack Cloud 9 は、お客様に以下のメリットをもたらします。

- 新たな Cloud Lifecycle Manager を導入し、そのユーザインターフェースを使用して、デプロイ後のクラウド運用を簡素化することでビジネスの敏捷性を高めます。
- HPE Helion OpenStack から SUSE OpenStack Cloud にシームレスに移行し、成熟し堅牢で安定した実稼働向けのプライベートクラウドを提供します。
- OpenStack Ironic のサポートを強化することで、従来のワークロードの移行を簡素化し、特定のワークロードパフォーマンスとユースケースのニーズに合わせて [ベアメタルサーバー](#) をカスタマイズすることができます。

Supermicro の上級副社長兼最高製品責任者である Raju Penumatcha 氏は次のように述べています。「Supermicro は2年以上前から SUSE と提携しており、SUSE OpenStack Cloud の最新バージョンのテストに深く関わっています。SUSE の [OpenStack](#) に対する専門知識とこれまでの歴史は非の打ちどころがなく、Supermicro のハードウェアポートフォリオと組み合わせることで、コスト削減に役立つだけでなくイノベーションのための理想的なソリューションが提供されます。SUSE OpenStack Cloud 9 と Supermicro のハードウェアが一体となることで、SUSE および Supermicro の世界レベルのサポート組織に支えられた、真のオープンソース技術に基づく、堅牢で安定した実稼働可能なプライベートクラウドが実現します。」

今週、ナッシュビルで開催される SUSECON では、SUSE が「オープン」を単なるオープンソースコードを超えるものとして再定義し、パートナー、お客様、およびコミュニティメンバーのコラボレーションと選択肢に投資していることを提示します。「My kind of open」というテーマで開催される SUSECON において、SUSE は、どこにでも導入できる柔軟性を備え、デジタルトランスフォーメーションとビジネス成長を推進する最新のソフトウェア定義型インフラストラクチャとアプリケーションデリバリーソリューションのオープン性を実証します。SUSE の事業やソリューションについての詳細は、www.suse.com をご覧ください。

SUSE について

SUSE は、オープンソースソフトウェアのパイオニア企業であり、信頼性の高いソフトウェア定義型のインフラストラクチャとアプリケーション配信ソリューションを提供することで、企業のコントロール能力と柔軟性を高めています。その卓越したエンジニアリング能力、圧倒的品質のサービス、他の追随を許さないパートナーエコシステムは、25 年以上の歴史を誇り、これに裏打ちされた製品とサポートは、顧客企業が複雑な要素を管理し、コストを削減し、自信を持ってミッションクリティカルサービスを提供できるよう支援しています。また、長期的な関係を構築することで、現在および将来にわたり、顧客が成功する上で欠くことのできない、より高度なイノベーションの開発・提供を実現しています。詳細については www.suse.com をご覧ください。

###

著作権 2019 年 SUSE LLC。不許複製。SUSE および SUSE ロゴは、米国およびその他の国における SUSE LLC の登録商標です。すべてのサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

【本件に関する報道関係の方のお問い合わせ】

SUSE ソフトウェアソリューションズジャパン株式会社 広報代理

クレアブ株式会社 担当：宮津

TEL：03-5404-0640 Email：suse@kreab.com